

2025年度  
フェリス女学院大学  
入学試験問題  
【一般入試C日程】

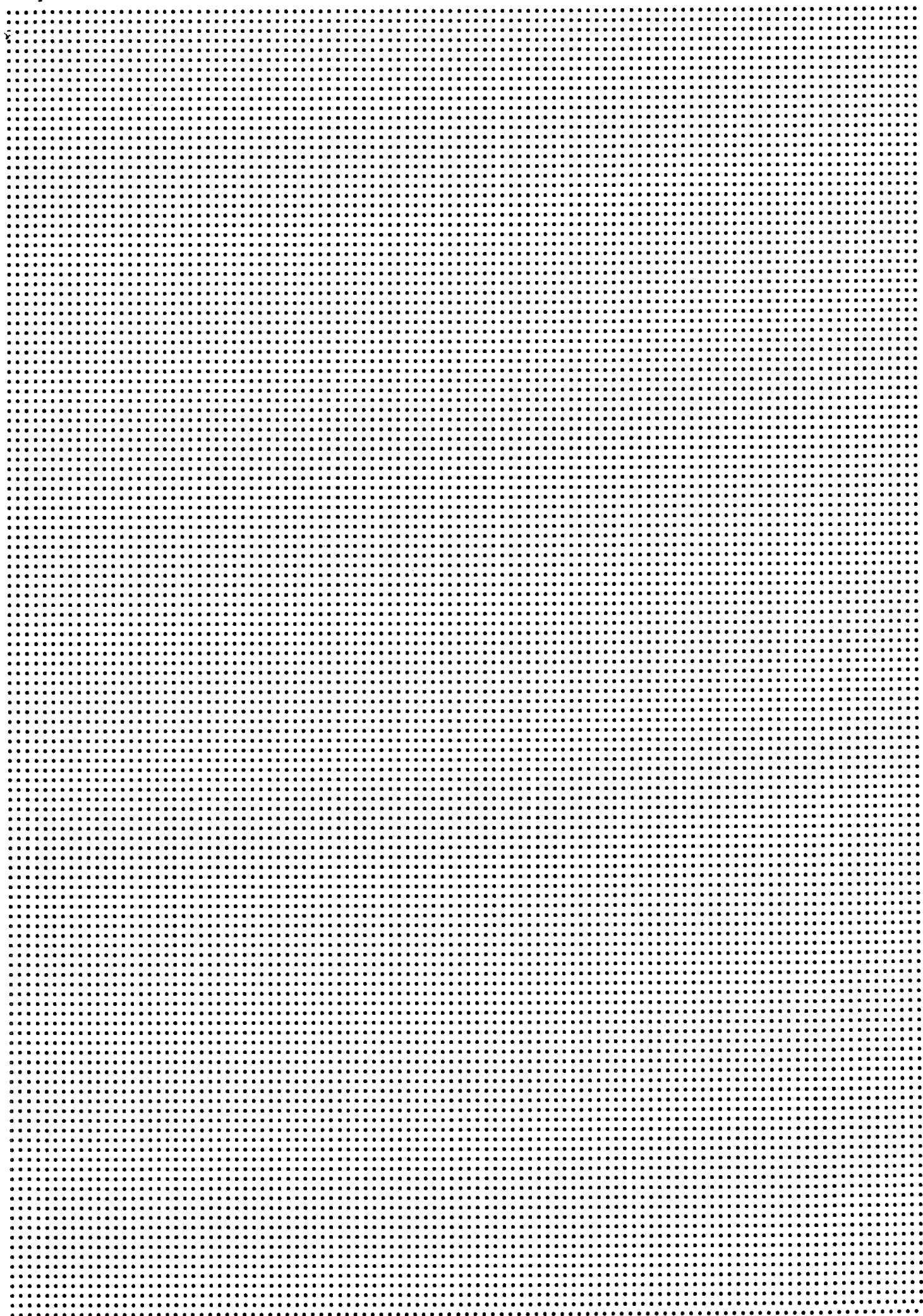
(2025年3月1日実施)

小論文

注 意

1. 試験開始の指示があるまで開いてはいけません。
2. 試験開始と同時にこの表紙と解答用紙に座席番号・氏名を記入しなさい。
3. 解答は、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
4. 問題用紙は持ち帰ってはいけません。

| 座席番号 | 氏 名 |
|------|-----|
|      |     |



以下の文章Ⅰ・Ⅱを踏まえて、中学生・高校生の学習（特に文章作成）における AI の利用に関する自分の立場を明確に示し、意見を記述しなさい。

＊字数制限は設けませんが、解答欄に収まるように記述すること。

## Ⅰ 学習（特に文章作成）における AI の利用をめぐる状況

近年、人間が入力した指示や質問などに応じて AI（人工知能）が自動で文章を生成する「対話型 AI」サービスの性能が飛躍的に向上し、ビジネスや日常生活、教育現場など幅広いシーンで利用されるようになってきた。2022 年 11 月に米国の OpenAI 社が公開した対話型 AI サービス「ChatGPT」は、2024 年 12 月時点で 1 週間あたりの利用者数が 3 億人を超えたとされ、同社は 2025 年中にこれを 10 億人にまで増やす方針とも報じられている。

こうしたなか、教育現場では、生徒がレポートや読書感想文を AI に書かせて提出してしまう事例なども生じており、学習効果の低下や評価の公平性の困難といった問題が指摘されている。2023 年 8 月に国内で実施されたある調査では、10 代～20 代の 3 割以上が夏休みの宿題に AI を利用したという結果も示されていた。インターネット上では、「ChatGPT を使った感想文の書き方」「バレないレポート自動生成の方法」といった情報も散見されており、不正行為を助長してしまっている面もあるが、それらが AI で書かれた文章であるか否かを教師が判別することは困難なのが現状である<sup>1</sup>。

作文やレポート作成などにおいて学習者自身が AI を利用することの是非や、その利用のあり方については、教育関係者の間でも見解が分かれている。小学校段階で児童自身に対話型 AI を利用させることについては、思考力や表現力の育成を阻害する等の理由で、特に慎重になるべきという見解が主流である（例えば、ChatGPT の利用規約では 13 歳未満の利用が禁止されている）。一方で、中学校・高校段階では、やはり生徒による AI の利用は厳しく制限するべきという見解がある反面、生徒自身が AI に触れながら正しい使い方を習得する機会を充実させるべきといった見解もあり、賛否両論が交錯している。

---

<sup>1</sup> 「『生成 AI で読書感想文』はホントに「ダメ」？ 専門家が考える「これからの共存法」とは」『AERA dot.』2024 年 8 月 22 日 <https://dot.asahi.com/articles/-/231605>

## II 中学生・高校生の学習（特に文章作成）における AI の利用についての 2 つの見解

### 【A】

生徒が対話型 AI を適切に活用すれば、一人ひとりの作文能力の向上につながるだろう。例えば、自分の書いた文章を AI に入力して、その分かりやすさや表現の正しさをチェックさせたり、似た意味の言葉や言い換えの表現を AI に提案させたりして、それらを参考にしながら修正を重ねることで、上手な文章の組み立て方を習得することができる。授業時間の制約上、教師がすべての生徒に丁寧なアドバイスをするのが難しいなか、対話型 AI は有効な学習支援ツールとなるはずだ。

また、これからの社会では「AI を使いこなして成果を出す能力」が不可欠になる。すでに多くの企業では、報告書やプレゼン資料の作成などにおいて AI を積極的に活用するようになっており、AI を活用できる人材が高く評価される時代が到来している。そのような時代に、中学校・高校において AI の利用を禁止することは、生徒の将来の競争力をそぐことにつながる。むしろ、AI を適切に活用するスキルを早い段階で習得させ、社会で即戦力として活躍できる人材を育てることこそ、教育の役割である。

### 【B】

作文やレポートなどの課題で AI の利用を許可すると、個々の生徒の能力を公平に評価することが難しくなるため、一律に禁止すべきである。例えば、アイデア出しの段階だけで AI を利用する生徒と、下書きを全面的に AI に書かせる生徒とが混在した場合、それらを同一の基準で評価すれば不公平になりかねない。また、経済的に余裕がある家庭の生徒は有料の高性能な AI を利用できるが、無料版しか使えない生徒は同レベルのサポートを受けられず、そこでも成果物の質に差が出てしまうことになる。

そもそも、初等中等教育段階で育むべき最も重要な能力は、一から自分の頭で考えて自分の言葉にするという基礎的な思考力と表現力である。先にその基礎力を習得しなければ、AI が出力した文章の良し悪しを判断することもできず、AI を適切に使いこなせるようにならない。それは、計算機が発達した後も手計算の学習が変わらず重要であり続けているのと同じことだ。生徒が文章を書くときに AI の補助を受けることを前提にしてしまうと、AI 時代にも欠かせない普遍的な基礎力を育む機会が失われてしまうことになるだろう。